

生活環境学部 文化情報学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

文化情報学科は、SDGs に代表される現代社会・人間社会に関する理解と数理・情報を適切に活用する素養を兼ね備えた広い視野を持ち、かつ、人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する専門的スキルを有し、豊かな人間性と深い専門知識をもとに自ら考え議論をして提言し、より良い社会を希求し、豊かで活力ある未来を創ることができる女性人材を育成します。また、人間や生活を支える多様な価値観を理解し、うまくコミュニケーションできるスキルと、様々な社会生活における課題に専門知識をもとに取り組み、社会をより良く改善できる論理性、客観性、プレゼンテーション能力を有した女性人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・現代社会・人間社会に関する知識と数理・情報に関する知識
- ・各コースで提供する人文社会科学あるいはライフ・コンピューティングに関する深い専門性
- ・課題発見と課題解決・価値創造力
- ・社会で貢献するためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

生活文化学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

生活文化学コースは、女性リーダーに必要な教養を身につけ、広い視野と専門的スキルの両者を兼ね備えた人材を育成します。人間生活を支える多様な価値観を理解して、うまくコミュニケーションするスキルを学び、様々な社会生活課題に専門的知識で取り組み、社会に貢献できる人材を育成します。

【身につけるべき資質・能力】

- ・教養教育科目および専門教育科目を通じて、社会における様々な事象に対し、人文社会科学の分野横断的な視点から物事を捉える能力を身につけている
- ・高いレベルの専門的知識およびそれらを体系化する論理性、客観性を身につけている

- ・主体的学習者として、問題を発見し、その解決に向けた取り組みを卒論としてまとめる能力を身につけている
- ・習得した知識、論理性、分野横断的なアプローチなどの能力を社会の中で役立てる際に必要となるプレゼンテーション能力を身につけている

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、生活文化学コースの定める卒業要件を修め、卒業論文の審査を受け、合格した者に学士の学位を授与します。

生活情報通信科学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

生活情報通信科学コースでは、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する情報通信技術を開発し、社会に発信できる人材の育成を目的にしています。明確な問題意識に基づいて生活環境の課題を設定し、広い視野でその課題解決に主体的・積極的に取り組む意欲と、先端の情報通信技術を身に付け、問題解決を先導する人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・最先端のライフ・コンピューティングに関する幅広い知識
- ・生活環境における様々な問題を情報通信技術により解決する問題解決能力
- ・主体的に課題を捉え、計画的に実行し、課題解決を先導できる能力
- ・専門知識により社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学部共通科目、学科共通科目、コース専門教育科目に区分されます。学部共通科目では生活環境学全般に関する基礎的事項を学びます。学科共通科目においては文化情報学に関連する授業科目を文理を問わず幅広く開講し、人文社会科学と数理・情報を含むライフ・コンピューティングの基盤的内容について幅広く履修することを求めます。コース専門教育科目については生活文化学コースについては人文社会科学について、生活情報通信科学コースについてはライフ・コンピューティングについて専門的に履修します。両コースとも卒業研究を必須とします。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育の内容と方法】

幅広い知識と活用力、深い専門性と課題解決・価値想像力、表現力を涵養するため、講義・実習・演習等の多様な教育が実施されます。学科共通科目でSDGsに代表される現代社会・人間社会に関する理解と数理・情報を適切に利活用する素養を兼ね備えた広い視野を身に付け、コース専門教育科目で人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する深い専門知識を修得します。文化情報学概論・文化情報学演習については、コースの区分けなく、学科全教員・全学生で授業を実施します。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

生活文化学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

教養教育科目と専門教育科目に大別されます。前者は基礎科目群と教養科目群に別れており、後者は、学部共通科目と学科専門科目に区分され、それぞれのカテゴリーから履修します。学科専門科目は、多彩な分野横断的科目を、基礎と発展的内容に分けて学年進行に合わせて設置しています。また課題発見・解決のためのデータ収集や分析スキルを学ぶための科目も2年次から設置し、コミュニケーション能力の涵養については初年次からアクティブ・ラーニング科目を設置しています。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育内容与方法】

分野の広さも大きな魅力ですが、それぞれの分野からたとえばジェンダー研究を学ぶというようにテーマを絞りつつ多角的な視点を確保するという学び方もできます。また、少人数教育も特色と言えます。何についてどう研究するか教員と相談しながら自分で決めていくのです。

【学習成果の評価の仕方】

成績評価基準は、試験、レポート等の課題提出など何をどのくらいの割合で評価するかを科目ごとにあらかじめシラバスに明示してあり、その方法で厳正に判定します。

生活情報通信科学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

文化情報学に関する共通教育科目群と、ライフ・コンピューティングの基盤となる先端的な情報通信技術の専門基礎科目とその応用を学ぶ発展科目を履修します。専門科目群は、最先端の情報通信技術とその応用技術、社会的側面を含む幅広い内容の科目で構成されています。

【教育の内容与方法】

生活情報通信科学コースでは、情報通信技術の枠を超え、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境の改善を先導する人材を養成します。複数言語のプログラミング、情報理論、ソフトウェア工学、人工知能、経営工学、プロジェクト管理など幅広い科目内容と、国家試験である情報処理技術者試

験の取得を目指す実践的な学習内容となっています。科学的探究心、論理的思考力、計画的実行力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を実践的なプロジェクトチームによる学習や先端的な情報通信技術の科目を通じて学びます。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

文化情報学科は、SDGs に代表される現代社会・人間社会に関する理解と数理・情報を適切に活用する素養を兼ね備えた広い視野を持ち、かつ、人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する専門的スキルを有し、豊かな人間性と深い専門知識をもとに自ら考え議論をして提言し、より良い社会を希求し、豊かで活力ある未来を創ることができる女性人材を育成します。また、人間や生活を支える多様な価値観を理解し、うまくコミュニケーションできるスキルと、様々な社会生活における課題に専門知識をもとに取り組み、社会をより良く改善できる論理性、客観性、プレゼンテーション能力を有した女性人材を育成します。

【求める学生像】

生活環境や社会、人間に対する幅広い関心を持ち、文理を問わない分野横断的教養を身につけ、かつ人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する深い専門知識を身につけ、卒業後はそれぞれの分野でリーダーや専門家として活躍したいと考える意欲のある学生を求めます。大学入学後の学習は文理横断・文理循環的な内容となるので、高等学校でも文理を問わず幅広く主体的に学ぶことを求めます。

生活文化学コース

【教育理念】

生活文化学コースは、人文・社会科学領域の確かな教養を身につけ、課題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力を高め、地域・社会でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。そのため、社会学・歴史学・ジェンダー研究・法学・経済学・社会心理学・表象論など多様な分野を取りそろえ、学際性豊かな教育環境を提供しています。また、フィールド調査・アンケート分析・ディベート・比較・文献講読等の教育方法を通じて、歴史的視野と国際的視野を広げ、積極性・主体性を陶冶することを目標にしています。

【求める学生像】

生活文化学コースは、幅広い関心を持ち、卒業後は公務員・教員・企業人等として活躍したいとの意欲をもつ学生を求めます。専門領域を自由に選べますので、高等学校では、文理を問わず、得意科目を深く勉強しておいてもいいですし、全分野に目配りをしながらバランス良く学ぶというスタイルであってもかまいません。日頃から、できるだけ国際問題や時事問題に関心を持つようにしてください。英語は、専門教育や大学院進学にとどまらず、社会人になったあとのコミュニケーション・ツールとしても重要ですので、高校で十分に学習しておくことが望まれます。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および文化情報学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語、情報の 6 教科 8 科目もしくは 7 教科 8 科目で、「理科 2 科目利用型」、「地歴・公民 2 科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から 1 科目の計 2 科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに文化情報学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第 1 次選考（調査書、志望理由書）と第 2 次選考（小論文、口述試験）で合否を判定します。第 1 次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身についているかどうか、生活文化学に対する興味関心进行评估します。第 2 次選考では資料の読解力、論理構成力、発想の柔軟性、コミュニケーション能力、学ぶ意欲进行评估します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校を含む対象校※において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、総合科目、数学（コース1）、TOEFLのスコア）と、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに文化情報学に対する興味関心などにより評価します。

第 3 年次編入学入試

第 3 年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活文化学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活文化学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

※対象校については本学ホームページ「学部入試（学生募集等）」に別掲

生活情報通信科学コース

【教育理念】

生活情報通信科学コースは、現代社会の IT 基盤を構成しつつあるライフ・コンピューティングに焦点をあて、ライフ・コンピューティングに関する社会的背景と諸問題に取り組み、これを改善できる能力を身につけた人材の育成を目指しています。そのため、情報分野の基礎である情報理論、コンピュータハードウェアならびにプログラミングについて学びます。さらにシステムという観点から、コンピュータの構成とその上で動作するアプリケーションに関する知識と理解力を身につけると同時に、そのようなシステムを設計開発する手順についての理解を深めます。

【求める学生像】

生活情報通信科学コースでは、次のような学生を求めます。

- ・人々の生活を改善するための ICT（情報通信技術）全般に興味を持つ人
- ・ICT の専門的な知識を身につけ将来は ICT の技術者研究者として社会に貢献したい人
- ・ICT 分野はシステム開発からコンテンツ開発・配信まで幅広いため文系・理系を問わず、主体的に学習・研究に取り組める人

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および情報通信科学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語、情報の 6 教科 8 科目もしくは 7 教科 8 科目で、「理科 2 科目利用型」、「地歴・公民 2 科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から 1 科目の計 2 科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、面接により、合否を判定しま

す。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考（調査書、志望理由書）と第2次選考（作品に関するプレゼンテーション＋質疑応答）で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身につけているかどうか、情報通信科学に対する興味関心を評価します。第2次選考では情報通信科学における特定の分野（プログラミングやコンテンツ開発等）の能力と実績を評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校を含む対象校※において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学）、TOEFL のスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活情報通信科学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活情報通信科学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

※対象校については本学ホームページ「学部入試（学生募集等）」に別掲